

# 交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2011年11月14日

No. 10

**会社：現時点は、平成13・14年度の額が精一杯である！**

**組合：手当抑制は許さない！経営陣が先頭に立ち汗をかくべき！**

## 第5回年末手当交渉報告

中央本部は本日13時45分より、第5回年末手当交渉を行いました。今回の団体交渉は、前回の第4回目交渉において、会社が年末手当に対する考え方を示す場でありながら、会社のおかれた状況のみについて示しただけでとどまったことにより、これまでの労使協議の手続きを無視した会社姿勢をただす場として開催しました。

冒頭、会社は第4回交渉において年末手当に対する考え方が示せなかった謝罪と、今後、同様のことが起きないように真摯に対応することを明らかにしました。

これに対して中央本部は、今回の事態は会社姿勢・体質を如実に表している。労働組合を軽視するのであれば貨物労組は毅然と対応する。会社姿勢については今後も注目していくことを明らかにしました。

その後、現時点の会社の考え方について以下の通り示されました。

- ①今年度赤字決算となった場合、経営陣は責任を取る。
- ②役員報酬カットについては更に深度化を図る。
- ③11月13日時点、対計画△1.7億円と厳しい状況が続いており黒字の見通しが立たない。
- ④現段階は、平成13・14年度の額が精一杯である。

これに対して中央本部は、

- ①この間の経営陣は一度も責任を取ったことがない。会社の言う「責任」とは何か、明らかにすること。
  - ②会社は、「10月期改定」「緊急収支対策」において2桁の黒字を目指しているならば、支払い能力はあると判断する。
  - ③苦勞したものが報われるように本社指導を徹底すること。
  - ④平成13・14年度の額という会社の考え方は認められない。私たちに手当抑制を打ち出す前に、経営陣が率先垂範し役員報酬カットや役員削減等の努力を見せること。
- 以上のことを指摘し、回答指定日には誠意ある回答を示すことを突き付け交渉を終了しました。

組合員のみなさん！会社経営陣は、自らが黒字計画を策定しているにもかかわらず、収入拡大よりも、手当をはじめとした経費削減を行うことに必死となっています。この間の私たちの苦勞を正当に評価させ、まじめに働く者が報われる会社とするため、中央本部は最後まで奮闘します。

明日の「全国統一行動日」に組合員の結集を図り、この現実を訴え、職場・地方・本部が一体となって手当抑制姿勢を打ち崩そうではありませんか！！

回答指定日は11月17日(木)です

以上